

立候補予定者2氏座談会 詳報②

2018

延岡

市長選

告示あと5日

子育て支援・教育

永山英也さん 子育ては個人・家庭の責任でなく社会全体で支えていく必要がある。教育は行政、政治の最も大事な仕事ではないかと思っている。

子育ては親の不安感・負担感をいかに解消するかが大事だ。子どもの城（仮称）を松山町につくる計画がある。大

事なのは中身で、安心して相豊かな学びのできる延岡をつくり、地域、家庭の教育力を一緒に上げていく。

延岡工業高に専攻科設置を県教委へ強く働き掛けをしていく。延岡の豊かな工業力を支えきれようという優秀な人材、企業と密接に結び付いた人材を育成していく。

読谷山洋司さん 延岡には隠れ待機児童の問題が現実にある。保育士不足も深刻だ。幼稚園、保育園、さらに児童クラブを強力に支援していく。何でも総合相談所「365日駆け込み寺」という全国に



座談会で発言する読谷山洋司さん（右）と永山英也さん

ないものを創設する。妊娠から出産、子育てまで総合的に対応する窓口機能で、事業所、特に幼稚園・保育園・児童クラブの現場の皆さんの悩みにも対応する。医療費についても関係機関と協議をした上だが、できるだけ早く中学3年生まで助成を拡大する決意だ。多様な保育サービスができるよう、地方分権の流れを受けて条例で制度を設けることができるので、そのことも実行していきたい。教育に関係して「いじめも未来創造機構」をつくる。トッパスリートの挫折を含めた経験、世界一の工業技術をつ

延工高に専攻科設置

永山さん

くつてきた延岡の人たちの生き様のエキスを子どもたちに伝える。子育てするなら延岡となるよう、日本一、世界一のまちにしていく。家庭、地域、学校、機構4者でスクラムを組んで教育していく。

医師確保

読谷山 現在の危機的状況を打破する。小児科医、産科医あるいは休日診療態勢の強化を図るため新型病院構想をスタートする。開業支援を行うメディアカルモールのな機能と病児保育機能を併設、中心市街地の空き店舗などに整備する。開業した医師は、市内の医療機関に非常勤として勤務してもらう。

県立延岡病院の医師確保や救急態勢強化のため、宮崎大地域総合育成サテライトセンターの設置、地元医師とのさらなる連携、協力的な構築などを進める。延岡看護専門学校への支援、市内外の養成機関との連携によって看護職員の確保にも取り組む。

コンビニ受診抑制のため効果的な啓発を図るとともに、健康長寿ポイントを強化した健康マイレージ事業を実施。日本一健康寿命の長いまちを目指し、適正な受診による医師負担の軽減を図る。

医療費助成は医療機関に負担をかけないよう、受付時間内への助成というところから

休日診療態勢を強化

読谷山さん

始めていく考えもある。「365日駆け込み寺」で医療・介護・福祉の切れ目のないサービスを行っていく。

永山 本当の意味で安全・安心と感じられる延岡をつくる上で医師確保は大事だ。小児科、産婦人科、救急医療も含め医師は足りない。医師誘致は先頭に立ち進める。

大きく医療制度が変わろうとしている。ベッド数を減らし在宅への方向に国全体が変わろうとしている。安全・安心が確保でき、できるだけ設備投資が少ない形で誘致を進める。合わせて訪問診療、看護をしっかりとっていく。大きく制度が変わるので、長期的な視点で医師、病院の誘致そして連携強化を進める。

看護師だけでなく、さまざまな医療技術者も不足している。そこを対処しないと医師の多忙感は解消できない。ますます向き合い、市の主体的な取り組みとしてかわる。

県立延岡病院は強化しないといけない。「中核的な病院として専門的な医師、技術者を」と働き掛けることは、県庁出身者として大きな務めだと思う。宮崎大医学部とはネットワークを持っているので臨床教育のサテライト設置を目指す。同病院を強化することで全体の医療水準を上げていく。